

「毎日が大ききかみたいで、ぼけてるヒマがないわ」と笑う元気なお一人さま「マーチャン」こと、若宮正子さん(77)がパソコンと出合ったのは60歳。当時90歳の母を介護する孤独な毎日を救ったのが、パソコン通信の電子会議室での楽しい交流だった。会議室はシニア向け交流サイト「メロウ倶楽部」に発展し、若宮さんはその幹事を務めている。

「家から出られない介護や病気の時こそパソコンは便利な道具なのだから、高齢者が使えるようにお手伝いをしよう」。12年前から神奈川県藤沢市の自宅で始めたパソコン教室は、生徒も70代の女性たち。「ワードで遊園地をつくって遊ぼう」「エクセルで楽しい手芸」などの教材はオリジナル。費用は1時間500円。無料だと参加者に逆

## シニア デジタル達人伝

孤独救ったパソコン通信



## 自宅で教室、動画編集も



オーストラリアのタスマニア島の旅でクルーシングを楽しむ若宮正子さん

に気を使わせるからだ。

「きょうは老眼を助けてくれる技、パソコンがメールやホームページを音声で読んでくれるという便利な使い方を勉強しようね。私も目の手術をしたばかり。万一のことがあったら、パソコンが目の代わりをしてくれるんですよ」

紀行文を単行本で出版したこともある若宮さんは旅が大好き。旅行先での映像を編集して自身のHP「マーチャンページ」で公開している。「ここ数年は欧州の川、リバークルーズに兄と2人で出掛けています。いろいろな街を観光できてシニアにはお勧めです」

「最近のビデオは軽くて操作も簡単。パソコン1台で映像に字幕を付けて、歩いた街の地図や音楽も入れられます。無料の動画サイトに投稿しておけば、いつでも楽しくかっ旅の思い出を振り返ることができます。気分は映画監督になったみたい。主演女優は自分ですからキャラも要りません！」

若宮さんは、高齢者の情報化への理解を深めるために自治体やNPOが主催する講演会にも引っ張りだこ。分かります。よく、ユーモアあふれる「マーチャン節」は絶好調である。(老テク研究会事務局長・近藤則子)

マーチャンのページのアドレスは「<http://homepage2.nifty.com/Marchan/>」